

## 聖路加リンパ浮腫ケアステーション — 2014 年聖路加リンパ浮腫ケア研修会 開催報告 —

細田 志衣<sup>1)</sup> 前田 邦枝<sup>1)</sup> 大畑 美里<sup>2)</sup> 中曽根朋子<sup>2)</sup>  
羽賀 千織<sup>2)</sup> 矢形 寛<sup>3)</sup> 佐藤佳代子<sup>4)</sup>

### St. Luke's Lymphedema Care Station —Lymphedema Care Study Session in the 2014 Fiscal Year Holding Report—

Yukie HOSODA, RN, MSN, OCNS<sup>1)</sup> Kunie MAEDA, RN, MSN, CN<sup>1)</sup> Misato OHATA, RN, MSN, OCNS<sup>2)</sup>  
Tomoko NAKASONE, RN<sup>2)</sup> Chiori HAGA, RN<sup>2)</sup> Hiroshi YAGATA, MD, Ph.D<sup>3)</sup>  
Kayoko SATO, Certited FoeldiMLD/CPT Instructor/MLAJ Chief Instructor<sup>4)</sup>

#### 〔Abstract〕

We started the St. Luke's lymphedema care station beginning in the 2008 fiscal year as a St. Luke's College of Nursing nursing practice research and development center enterprise.

At this station, we offer a range of activities from individual care based on the comprehensive assessment to educational group instruction about prevention before development of lymphedema symptoms. The patient base is women who have had breast cancer operations and woman with symptoms of secondary lymphedema after breast cancer medical treatment.

Furthermore, I conduct a study session once a year for nurses aiming at the spread of knowledge and technology for lymphedema prevention and early detection. At the lymphedema care study session in the 2014 fiscal year, in addition to the basic knowledge about lymphedema, I included the practical skill of complex physical therapy for lymphedema medical treatment. Attending were 32 nurses.

The results of the participants' evaluation questionnaire indicated the session was very well received. For future study session, we aim to enrich the contents of instruction based on comprehensive assessment and will also include the patient's psychology. Another addition will be the general news page to enhance the acquisition of the knowledge and technology about lymphedema.

〔Key words〕 lymphedema care, nursing education, complex physical therapy

#### 〔要 旨〕

聖路加リンパ浮腫ケアステーションは、2008年度より聖路加看護大学看護実践開発研究センター事業として開始した。本ステーションでは、乳がん術後の女性を対象としたリンパ浮腫発症前の予防教育を行うグループ指導と、乳がん治療後に続発性リンパ浮腫を発症した患者への包括的アセスメントに基づく個別のケアの提供を行っている。さらに主に看護師を対象としたリンパ浮腫予防と早期発見のための知識・技術の普及を目的にした研修会を年に1度開催している。2014年度のリンパ浮腫ケア研修会では、リンパ浮腫に関する基礎知識に加え、リンパ浮腫治療における複合的理学療法の実技を含めた内容で開催し

1) 聖路加国際大学 教育センター St. Luke's International University, Education Center  
2) 聖路加国際病院 看護部 St. Luke's International Hospital Department of Nursing  
3) 聖路加国際病院 乳腺外科 St. Luke's International Hospital Department of Breast Surgery  
4) 学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所 Goto College Lymphedema Institute

34名が参加した。参加者からのアンケート結果は概ね好評であった。今後の研修会では、リンパ浮腫に関する知識・技術の習得に加え、患者の心理・社会面も含めた包括的アセスメントに基づく指導内容が検討できるように内容を充実させることが課題である。

〔キーワード〕 リンパ浮腫ケア、看護師教育、複合的理学療法

## I. はじめに

2008年度の診療報酬改定において、保健医療機関に入院中の患者を対象に子宮悪性腫瘍、子宮附属器悪性腫瘍、前立腺悪性腫瘍または腋窩部郭清を伴う乳腺悪性腫瘍に対する手術を行ったものに対して、医師の指示に基づき看護師または理学療法士がリンパ浮腫の重症化等を抑制するための指導を評価するリンパ浮腫指導管理料が新設され、その後、2010年、2012年の改定により、入院中だけではなく、退院した日の属する月またはその翌月に指導を再度実施した場合にも算定が可能となり、リンパ節郭清術を伴う悪性腫瘍の術後に発生する四肢のリンパ浮腫のための弾性着衣に対して療養費が支給されることとなった。しかしリンパ浮腫の治療に対する診療報酬算定は認められていない。リンパ浮腫は一度発症をすると完治が困難であることから、発症の予防や早期発見を行うことが重要とされている。聖路加リンパ浮腫ケアステーションは、聖路加看護大学看護実践開発研究センター事業の一環として2008年より学校法人後藤学園リンパ浮腫研究所より日本医療リンパドレナージセラピストを派遣していただき、聖路加国際病院と聖路加看護大学と学校法人後藤学園リンパ浮腫研究所が協働してリンパ浮腫治療を開始した。本ステーションでは、がん看護を専門とする看護師、あんまマッサージ指圧師、乳がん専門医がチームを組織し、リンパ浮腫の予防、早期発見に関する教育、ケアの提供、悪化予防のための専門医への連携とコンサルテーションなどの統合的なケアを実施している。具体的な内容としては、乳がん術後の女性を対象としたリンパ浮腫発症前の予防教育を行うグループ指導と、乳がん治療後に続発性リンパ浮腫を発症した患者への包括的アセスメントに基づく個別的ケアの提供を行っている。さらに医療従事者に対してリンパ浮腫予防と早期発見のための知識・技術の普及を目的にした研修会を年に1度開催している。

## II. 目的

本論文は、2014年度に開催した「リンパ浮腫ケア研修会」の活動状況と参加者からの評価から、医療従事者に対するリンパ浮腫ケア指導の示唆を得ることとする。

## III. リンパ浮腫ケア研修会の実施状況と参加者評価

### 1. 研修会の概要

リンパ浮腫ケア研修会は、2008年度より聖路加看護大学看護実践開発研究センター事業として実施されてきた。前年度まではリンパ浮腫ケアの基礎知識の普及を目的に、主にリンパ管の解剖生理と診断に関する講義とマッサージの一部を紹介する構成であった。複数の参加者から「実技を行う時間を増やしてほしい、応用編を企画してほしい」といったリンパ浮腫の複合的理学療法に関する実技も学びたいという要望がきかれた。そこで2014年度は、日本医療リンパ浮腫ドレナージセラピストの資格を有するメンバーの全面的支援のもとに第I部「基礎編」、第II部「実践編」として基本技術の体験を含めた1日コースを企画し、聖路加国際大学にて7月26日に開催した。第II部に関しては講師による実技指導を要するため定員を12名に限定して参加者を公募した。第I部の研修には聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程がん化学療法看護コースの研修生も、「がん化学療法に伴う症状緩和とセルフケア支援」の科目の一環で参加した。

第I部ではリンパ浮腫の予防・早期発見に対する教育として、リンパ浮腫に関する基礎知識の理解を深めることを目的として、最初に聖路加国際病院乳腺外科・日本医療リンパドレナージセラピストである矢形寛医師よりリンパ管系解剖生理と浮腫の鑑別、リンパ浮腫の定義、重症度と診断、治療について話していただいた。次に、リンパ浮腫治療の世界トップレベルであるドイツフェルディ学校、フェルディクリニックで日本人初の複合的理学療法認定教師の資格を取得し、現在、学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所所長の佐藤佳代子先生に複合的理学療法の中から、手動的リンパドレナージと圧迫療法の実践と適応、病期に応じた対応について事例を交えながら話していただいた。第II部ではリンパ浮腫治療の複合的理学療法の実技を体験することを目的に、場所を講義室から実習支援室に移して開催した。最初に講師が手動的リンパドレナージの基本手技である静止クライス、シェップ等について手の添え方、ドレナージに関するデモンストレーションを行い、参加者全員で見学を行った後に、参加者同士で患者役と看護師役を交代しながら実



写真1 研修会第I部の様子



写真2 研修会第II部の様子

際に基本手技を体験した。体験の際には、佐藤佳代子先生と日本医療リンパドレナージュセラピストを有する看護師3名が手技の指導にあたった。その後、講師による圧迫療法のデモンストレーションを行い、研修最後に参加者全員から研修参加の感想を述べてもらい、学びを共有した。

## 2. 研修会参加者のアンケート結果

### 1) 参加者の特性

参加者は、第I部34名、第II部12名(見学者13名)で、うち男性が3名、全員が看護師であった。年齢は20代9名、30代10名、40代12名、50代1名、不明2名であった。看護師経験平均12.2年(1~25年)、所属機関は病院31(外来所属8・病棟所属23)、訪問看護ステーション1名、その他2名であった。参加者のほとんどは関東4県からの参加であったが若干名東北地方からの参加者もみられた(表1)。

### 2) 研修会参加のきっかけ

研修会参加のきっかけは、近隣の医療機関に送付したポスターが12名と最も多く、次いで知人の紹介やホームページからであった。

## 3. 評価

研修会の内容については、講義形式で行った第I部のリンパ管系解剖生理や複合的理学療法の基本手技に関しては、「大変役立つ」が73%、「役立つ」が27%と、研修会の内容は臨床で役立つと回答しており、「自分の知識のふりかえりもできたしさらに患者さんへの説明にも役立つと思います」「リンパ浮腫がどのようなメカニズムでおこるか症状緩和にはどうすればよいか機序を考えるうえで役に立った」「理解しやすかったので理解した状態で指導するのとしないとでは全く違うと思った」「患者さんのなかにはリンパ浮腫治療施設の費用が高く通えないという方も多く、基礎知識、セルフケア指導の大切さを改めて感じました」など、患者さんへのリンパ浮腫

表1 参加者の基本属性 n N=34(人)

性別	男性	3
	女性	31
年代	20代	9
	30代	10
	40代	12
	50代	1
	不明	2
看護師経験年数	1~3	8
	4~6	2
	7~9	4
	10~19	13
	20~	7
所属	病院(外来)	8
	病院(病棟)	23
	訪問看護ステーション	1
	その他	2

指導に役立つといった自由記載が多くみられた。また「基本手順・手技については具体的に学ぶことができたが、引き続き学ぶ場があればでていきたい」と継続してリンパ浮腫ケアに関して学ぶ意欲につながる声もきかれた。

第II部の実技に関するアンケート評価では、用手的リンパドレナージュの基本手技に関しては、参加者の93%が「大変役立つ」、7%が「役立つ」と回答しており、自由記載では「雑誌等では分からない力のかけ具合を体験し理解することができた」「圧のかけ方が実際にやってみて理解できた」など筋層に働きかけるマッサージとの違いを体験する機会になっていた。また「実際にできたので雰囲気はわかったが実際に患者さんにするのは難しいと感じた」と短時間の体験だけでは、技術の習得には至らないことを示していた。圧迫療法、弾性着衣に関する評価では参加者の33%が「役立つ」、66%が「大変役に立つ」と回答し、「実際に生かせるかわからないが仕組みが理解できた」「(弾性着衣に関して)装着の仕方やサイズに気をつけていきたい」などといった回答がみられ、参加者からのアンケートは概ね好評であった。

#### IV. まとめ

2014年度リンパ浮腫ケア研修会は、リンパ浮腫予防と早期発見のための知識・技術の普及を目的として、リンパ系の解剖生理や浮腫の原因や発生機序と病期に関する知識の習得と技術の体験を目的として開催した。今年度より内容に取り入れた用手的リンパドレナージの実技体験や圧迫療法についても、参加者の大半が役立つと回答していたが、今回の研修はあくまで体験でありスキルとして習得可能な時間や内容ではない。リンパ浮腫に対する用手的リンパドレナージやバンテージは的確なアセスメントによるケアプランと専門的技術に基づき行われる高度なケアである<sup>1)</sup>。したがってスキルの習得を目指すためには系統的にリンパ浮腫治療について学ぶ機会をもつことが必要である。今回の研修会では日本医療リンパドレナージ協会等の研修会等の紹介も行っており、研修参加をきっかけにリンパ浮腫ケアへの関心を高め、まだ国内では数少ないスペシャリストを目指す機会につながることを期待している。用手的リンパドレナージは皮下組織の過剰な貯留液を効果的に誘導し、また皮下組織の新陳代謝を改善するマッサージ技術である<sup>2)</sup>。リンパ浮腫潜在期(0期)の介入におけるリンパドレナージの介入により続発性リンパ浮腫の発症を妨げる可能性を示唆する報告<sup>3)</sup>もみられており、今後も医療従事者がリンパ浮腫ケア・リンパ浮腫の複合的理学療法に関して正しい知識や技術を習得し、患者の心理・社会面も含めた包括的アセスメントに基づく指導内容が検討できるよう研修内容を充実させることが課題である。

#### 謝 辞

本事業運営にあたり2008年度開設当初より多大なるご指導とご支援をいただいた学校法人後藤学園付属リンパ浮腫研究所の皆様へ深く感謝申し上げます。

#### 引用文献

- 1) 増島麻里子 (2009). 第23回日本がん看護学会学術集会教育講演1 リンパ浮腫のケアーリンパ浮腫の予防的介入における看護の役割と課題一. 日本がん看護学会誌 23巻2号. 59-61.
- 2) 一般社団法人リンパ浮腫療法士認定機構編 (2013): リンパ浮腫診断治療指 2013. 59-60. Medical Tribune.
- 3) Peckig AP, Gougeon-Bertrand FJ, Floiras JL et al (1998): Primary prevention of upper limb lymphedema in breast cancer how why and what kind of result?. *Lymphology* 31. 532-537.

#### 参考文献

- 1) 辻哲也. (2014). リンパ浮腫診療のための教育・研修活動における多職種連携—厚生労働省後援リンパ浮腫研修運営委員会の取り組み—. *リンパ学* 37巻1号. 28-32.
- 2) 植田喜久子, 札埜和美, 鈴木香苗, 松本由恵, 中信利恵子, 池田奈未. (2014). ジェネラリストの看護師が行う乳がん患者への続発性リンパ浮腫の早期発見と発症予防をめざした学習支援の有用性の検討. *日本赤十字広島看護大学紀要* 14巻. 1-8.
- 3) 庄村雅子, 宇佐美優子, 長島聖子, 佐藤利枝, 渡辺知映. (2011). がん手術後のリンパ浮腫の予防と早期発見に関するセルフケア教育技術の標準化とその評価. *東海大学健康科学部紀要* 17号. 75-76.